活動レポート　地域産業研究会

講演会報告

南後志　北限ブナ林見学会に向けて
「後志３町村（島牧村・寿都町・黒松内町）森林資源について」

地域産業研究会副代表　板垣恒夫

1. はじめに

地域産業研究会は、これまで見逃されてきた地域資源を見つけ出し、それを活用した地域振興や地域産業の可能性を研究することを目的として平成9年4月に発足し、様々な分野の技術士が多数参加し幅広い活動を続けてきました。研究会の活動領域は、北海道の基幹産業である農林水産業や環境に関する課題など地域の目線、地域の発想を重視し、地域の人たちとともに考え、ともに行動することを通して、北海道の活性化に役立つことを願って活動を展開しています。現在、当研究会の活動は、恒例会、分科会、現地見学会の3つの柱からなっています。

全体の恒例会としては、地域産業の活性化等をテーマとした意見交換会を実施しており、外部から講師を招き、講演とともに講演に対する意見交換会を定期的に行ってきました。今年で12年目を迎え、外側に向けての取り組みとともに、内部の技術士や各分科会活動を全体で分かち合い学ぶことも重要であるとの考え方で、今年から内部講師による講演を計画し、まず当研究会の板垣恒夫副代表が地域活性化分科会での活動内容を講演したものです。

地域産業研究会の地域活性化分科会では、これまで寿都町との交流を進め活動を展開してきましたが、周辺の島牧村や黒松内町とも共通のテーマで交流を深める機会を得て、９月11日～12日（見学会報告として別報告）の見学会開催に向けての取り組みとして位置づけ、講演会を実施しました。

なお、域活性化分科会は、森林資源班、共創班、地域資源班、ハマボウフウ班の５つの班による活動と定例会、幹事会、共通研究会を展開しています。

2．域活性化分科会・森林資源班の取り組み

森林資源斑の活動は、平成13年頃から開始された。森林資源班の活動が本格化したきっかけは、平成15年9月に実施した「寿都町・美しい海づくり研究」の現地調査報告での山グループ（当時の名称）の今後の課題として次の課題が挙げられてからです。

①寿都町の森林資源の概況を把握し、②それに基づいて、「町民の森」構想を具体化し、③対外的に寿都町の「これまで知られていない魅力」を明らかにし、発信します。

森林資源グループは、当研究会の副代表である板垣恒夫技術士の精力的な取り組みと地元関係者を巻き込み前進するパワーが支えています。

平成18年度には、課題であった森林自然の把握として、樽岸地域の森林についての調査を行い、「空中写真による寿都町樽岸地域の森林の状況について」を報告しています。また、平成18年3月29日には、「寿都湾を育んできたブナについて」と題し、片岡春雄町長がＮＨＫ第一放送もぎたてラジオ便で放送しています。

今回の講演では、南後志地域のブナ林を中心とする森林資源について、これまで調査してきたことなど解り易く説明して下さいました。

3．講演の概要

1）3町村の森林資源

3町村の森林資源の概況は表のとおりです。表では島牧村が林野面積、天然林面積が多く、林野率は93%を占めています。黒松内町は人工林面積が多く、３町村では第一です。森林面積に対する不在面積割合では寿都町が13.6%、黒松内町が40.7%で、それぞれ悩みの種になっています。

南後志3町村森林面積概況

市町村名	土地面積（単位：ha）	合計				林野率（%）	不在面積（単位：ha）				森林面積に対する割合（%）
		合計	人工林	天然林	その他		道内不在	道外不在	不明	不在計	
島牧村	43,726	40,511	3,149	32,012	5,350	92.6	691	2,132	4	2,827	6.9
寿都町	9,536	7,436	918	6,051	467	78.0	318	690	0	1,008	13.6
黒松内町	34,547	26,160	7,606	16,797	1,757	75.7	3,602	7,051	1	10,654	40.7
合計	87,809	74,107	11,673	54,860	7,574	84.4	4,611	9,873	5	14,489	19.6

※ 資料は、北海道カラマツ林業歴史研究家（林業技士）の坂東忠明氏の提供による。

2）寿都町のブナ林調査から何がわかったか

①「大和の沢」北限ブナ林・滝ノ澗川ブナ林

2007年5月、寿都町と北大・道教育大・技術士会北海道支部共同の森林資源調査で最北限のブナ林が「大和の沢（40数本の小団林）」で確認された（2007・5・24 読売新聞）。これまで最北限とされてきた蘭越町名駒のツバメの沢保護林より約1.5㎞北に位置しています。

「滝ノ澗川ブナ林」は大和の沢より南へ約850mの急斜面に位置し、まとまりのある中大径木による見事なブナ林が形成され、大和の沢ブナ林の将来が想像されます。

②　法人の森ブナ林

寿都町樽岸にある「法人の森」は、1998年に1月に函館営林支局と緑のオーナー制度に基づき法人としての寿都砕石（寿都町内）との間で契約が取り交わされ、町民等に向けたさまざまな社会貢献活動が展開されています。特に、低標高にある「法人の森」では三つの異なった林の分布が見られる点で貴重です。また、薬草効果のある「トチバニンジン」など多種類の植生を見ることができます。北斜面には、まとまりのある見事なブナ林がみられます。

(写真) トチバニンジン

③　樽岸地域の森林

朱太川河口から西側の標高ほぼ80m～120mに広がる樽岸地域の段丘緩斜面はかつて農地として利用されてきたが、今は放棄地化されて、二次林の広がる地域に変わってきています。この二次林の中にもブナ芽生えとブナ生立木が見られますが、付近の母樹の影響が大きいようです。

④　湯別のブナ更新

寿都町湯別地域の２次林におけるブナ更新として、２つの事例紹介がありました。１つは、ブナ母樹と沢傾斜面への種子落下によるブナ更新で、「湯別の湯」コテージ裏の小沢の母樹と落下種子による更新があります。林道法面や傾斜地への種子落下による更新は、国有林や町有林の林道法面によく見られるとのことです。２つめは、牧草地など耕作放棄地にみられる「ノネズミ類」によるブナ果実の置き忘れによる更新で、寿都葬祭場近くの攪乱地で見ることができます。（詳細は、前号第118号の『野鼠類による「ブナの実」の置き忘れが寿都町のブナ林を再生』を参照してください）

3）北限地帯･3町村のブナ林

①　島牧村のブナ林：狩場山地や大平山の裾野に広がるブナ天然林は数万haとも言われ、さらなる科学的調査が期待されています。島牧村のブナ北限は島牧村歌島の歌島川上流で、ほぼ北緯42度47分で、蘭越町「ツバメの沢」よりは南に位置しています。**②　黒松内町のブナ林**：昭和33年に天然記念物に指定された歌才ブナ林は昭和63年に「歌才植物群落保護林」に指定されています。見学会予定地は、これより若齢林の「添別ブナ林（町有林）」が予定されています。**③寿都町のブナ林：**すでに述べてきていますので、省略します。

4．おわりに

講師である板垣技術士は、地域との関わりと現場で学ぶことを重視し、そのため、情報交換や交流の活動を行っています。願いは、これらの活動を通して結果的に地域の活性化に繋げたいとの思いです。最近では、地元の森林に関する課題の相談を持ちかけられるなど地域に根付いた活動を続けています。

（文責：地域産業研究会幹事長　須川清一）